

『玉川上水』に関する読売・朝日・毎日新聞の記事 縦覧

日本	玉川上水	掲載 年月日	社名	大見出し	小見出し	本文 要約
	完成	1654年 承応3年	★			
	名勝・小金井桜 指定	1924年 大正13年	★			
終戦		1945年 昭和20年	★			
		1947年 昭和22年 6月16日	朝日	太宰治氏情死	玉川上水に投身、相手は戦争未亡人	
		1948年 昭和23年 6月16日	毎日	太宰治氏 心中か	玉川上水に遺留品	
		1948年 昭和23年 6月16日	読売	太宰治氏情死行	二人の下駄漂着 心中四回目の太宰氏	東大生時代の心中では女性は死亡。
	風致地区 指定	1962年 昭和37年	★			
東京オリンピック		1964年 昭和39年 6月29日	読売	玉川上水でウズに		砂川町在住の17歳の男性が上水用水路で水泳中ウズに巻き込まれ1.5キロ流され死亡。
	通水停止	1965年 昭和40年	★			
	通水停止	1965年 昭和40年 2月18日	毎日	枯れゆく名所のサクラ	バイ煙、車のガスなどで。大手術を・・・植えかえもダメ	玉川下水、荒川、飛鳥山の3か所のサクラの衰退報告。玉川上水、交通ラッシュで大きな痛手。小金井公園事務所は3年前まで根本を掘って肥料をやったり、せん定したり、支柱を立てるなどの手入れをしたがキキ目はなく、苗木の植え替えもやめ、サジを投げた状態。
		1966年 昭和41年 2月19日	朝日	無残！玉川上水の並木		杉並区域の暗きょ化で木々が皆伐された。現地調査もせず都民の財産である緑をなくす「無神経さにあきれる」という投書者の言い分を、今後の行政に十分反映させてほしいものだ。
		1966年 昭和41年 2月5日	読売	くぬぎ林に独歩公園	武蔵野市 地元や有志の運動実る	武蔵野市境4丁目、玉川上水近くにあるこのくぬぎ林は国木田独歩がありし日、恋人と散歩した「若き恋の夢」の場所。
		1966年 昭和41年 4月6日	毎日	武蔵野の名ごりを大切に	「玉川上水を守る会」が発足	玉川上水を守ろうという人たち約50人が井の頭弁天堂に集まり「玉川上水を守る会」発会式を行った。
		1966年 昭和41年 5月28日	毎日	玉川上水の貴重な古文書	水番役人の報告書 87年間の給水量など記録	新宿区資料室が発見。文化二年から明治25年までの水量報告や水を守る苦労が日誌で克明に記録。
		1966年 昭和41年 7月27日	読売	玉川上水へホタル放す	守る会で百二十四匹	千川上水が暗渠化で埋められるため、守る会と多摩動物公園矢島稔技官が千川上水で保護したホタルを新橋さわで玉川上水に放した。
		1966年 昭和41年 8月30日	毎日	きょう玉川上水に1万匹放つ	ホタルの幼虫	千川上水工事で住めなくなるホタルを採取し、多摩動物園で1万個の産卵に成功。玉川上水の万助橋から幸橋の間で放虫。
		1966年 昭和41年 10月8日	毎日	玉川上水を虫の楽園に	桑の家をどうそ	虫やホタルのために井の頭公園上水沿いにクワの根を埋設。
		1967年 昭和42年 4月4日	毎日	水はチヨロチヨロ	両岸に無残な切株	通水停止後のゴミの投棄、三鷹駅拡張工事の写真、『豊かな水流を失った玉川上水は、もはや武蔵野の風景美のひとつと数えることはできない、と感じた』。

		1967年 昭和42年 5月18日	毎日	さらに努力 自然保護	一周年迎えた「玉川上水の会」	発足後一周年を迎えた「玉川上水を守る会」が井の頭公園脇の大盛寺で定期大会を開催した。
		1967年 昭和42年 5月18日	朝日	機能失う下流	江戸の名物	水の流れが亡くなれば風情も消える。高速道路にする計画があるそうだが、いたずらに緑を壊すだけが都市開発であるまいに。
		1967年 昭和42年 6月18日	読売	玉川上水を残して	守る会美濃部さんに陳情	玉川上水を守る会幹部5人が都庁で美濃部都知事を訪れ「武蔵野の自然を破壊する都市計画はやめて欲しい」との陳情書を手渡す。
		1967年 昭和42年 6月21日	朝日	玉川上水保存を知事に陳情	「守る会」	1：文化財申請してほしい。2：群生するホタルの保護。3：一部を遊歩道公園にする場合は、水流、土手木や野草を残して欲しい。
		1968年 昭和43年 6月11日	毎日	玉川上水に2万匹	秋にはスズムシの大合唱	武蔵野の愛好家が寄付、守る会が放虫。
		1968年 昭和43年 6月18日	毎日	姿見せぬホタル	せっかく育てたのに送水管修理の影響？	上水からの送水管修理のため一時送水をストップ。カワニナが死んだ影響。
		1968年 昭和43年 7月2日	毎日	玉川上水を史跡に	守る会代表 近く文化庁長官に申入れ	守る会代表が文化庁長官に申し入れる。これまで都や国に要請したが一向に進展しないため発足したばかりの文化庁、長官と会って市民の声をじかにぶつけようというもの。
		1968年 昭和43年 11月29日	毎日	武蔵野の面影残そう	玉川上水の道路計画に反対運動	三鷹駅⇄幸橋の上水兩岸の都市計画道路。
		1968年 昭和43年 12月20日	朝日	分断道路反対を要望	玉川上水を守る会「風致台無し」と知事に	井の頭公園の玉川上水兩岸の道路計画。先立って守る会が武蔵野市長に面談、武蔵野市長は「私も上水はできるだけ保存して、そばに遊歩道を作りたいと考えてきた。一存ではどうにもならないので、三鷹市長、都知事に相談して協力したい」。
		1969年 昭和44年 3月2日	朝日	荒れ果てた玉川上水	「美しい自然残せ」守る会 「下流は道路に改造」都	緑が奪われていく東京で、わずかに自然を残している玉川上水がドブ川に変わりつつある。都は小金井より下流は道路にするのが基本計画だと説明。
		1969年 昭和44年 6月23日	読売	玉川上水の維持目標に	多摩自然を守る会	多摩自然と文化を守る会は都の改修方針によって危機に立たされている玉川上水の現状維持を視察し、今後の重要な運動目標と決め「江戸の遺産としても、都民のオアシスとしても絶対に保存する必要がある」と確認した。
		1969年 昭和44年 11月30日	読売	玉川上水保存などを討議	多摩自然と文化を守る会	立川市で公開シンポジウムが開かれる。
		1970年 昭和45年 6月16日	朝日	玉川上水跡地をめぐり三つの声	保存・道路・遊び場	1：自然保護＝公害対策 守る会。2：道路＝渋滞解消 都。3：子供の遊び場 主婦。
		1970年 昭和45年 10月13日	朝日	「玉川上水を守る会」の請願通る		「玉川上水は武蔵野の象徴だ。公害対策の一つとしても、水路の岸の緑はできるだけ残すべきだ」請願をして4年ぶりにやっと認められた。
		1970年 昭和45年 10月14日	毎日	玉川上水をオアシスに	保存の請願 都議会きょう採択	「武蔵野のオアシス、玉川上水を守って」という粘り強い運動が四年ぶりに実を結び、上水保存の請願が採択されることになった。玉川上水を守る会や武蔵野三鷹両市の市民は大喜び、スモッグに悩む都民に“水と緑の遊歩道”を贈ろう、上水を利用したホタルの養殖、排気ガスに朽ち果てたサクラの再現などロマンいっぱいの青写真づくりに着手した。

		1970年 昭和45年 10月17日	読売	四年越しでやっと採択	「玉川上水を守る会」の請願	「玉川上水に残された自然と緑を保存して欲しい」という請願が採択された。
		1971年 昭和46年 3月5日	読売	玉川上水に緑の散歩道	井の頭、小金井公園つなぐ 武蔵野市10年計画	予算総額450億円の武蔵野市緑のネットワーク計画（10年計画）で、水道局が上水に本管を埋設した後、コンクリートで固め、改めて川底を作ったうえ、昔のように水を通したい。
		1971年 昭和46年 4月7日	読売	“最後の自然”大事に		二千六百ミリの水道本管を上水に入れて送水力を上げようと大規模な水道拡張計画を立てている。だがそんな工事をやったら、玉川上水の自然はメロメロに破壊されてしまうのでは、と市民は心配する。緑が壊されるのはゴメンだ。自然を破壊しない工事を要求する。
		1971年 昭和46年 7月7日	読売	消えるなニシキゴイ	稚魚3000匹放流	三鷹市の養鯉業の浅野さんと玉川上水を守る会がニシキゴイ3000匹とトノサマガエル3000匹を放った。
		1971年 昭和46年 11月24日	毎日	「玉川上水埋めないで！！」	散歩道の危機 オールドパワー立つ	早起き散歩の会 上水保存の請願。上水と兩岸の散歩道は長寿を贈ってくれた命の恩人。孫のためにも残したい。
		1972年 昭和47年 3月12日	読売	だれだ！サクラを折ったのは	若木18本、根元から 玉川上水跡の公園	サクラ堤を再現しようと杉並区公園課が玉川上水第三公園に植えたサクラ18本が引き抜かれる。
		1972年 昭和47年 4月22日	朝日	野趣ただよう雑木林	保存が決まった玉川上水ベリ	玉川上水の一部が林間遊歩道として残されることになった。守る会が立ち上がらねば自動車道になっただろう。あぶないことだった。
		1972年 昭和47年 5月10日	読売	玉川上水歩道化にふれて	自然を蘇らせよう	評論家：野田宇太郎 少しでも水が流れるようになれば堤防には草木が喜び、昆虫もおのずから生まれてくる。
		1972年 昭和47年 5月25日	朝日	玉川上水ベリに散歩道	“クルマ派”に勝った武蔵野の自然。	虫の音すだく12キロ。実った根強い運動。「野草や雑木林が荒らされているところ以外は、なるべく手を入れずに自然のままにするつもりです。大都会のすぐそばでこんな長い散歩道はほかにない。歩くだけの散歩道にしたい」（都建設局の話）
		1972年 昭和47年 10月30日	読売	玉川上水の保存に研究委員会発足		都は玉川上水を遊歩道にすることを決めており、沿線自治体に利用計画を明らかにするよう求めている。
		1973年 昭和48年 8月11日	読売	都、緑保護に野鳥放つ	キジ中心に1870羽 武蔵野や多摩の丘陵に	小金井市玉川上水風致地区、調布市深大寺、多摩丘陵などにキジ1400羽、コジュケイ160羽、ウズラ210羽、ヤマドリ50羽を放鳥。害虫を食べる野鳥を天敵として増やし、森林を保護するねらい。
		1973年 昭和48年 8月18日	朝日	水は満々玉川上水	31年前のフィルム見つかる	樹木うっそう、車なし。昭和17年撮影の16ミリ。守る会の榎本さん宅から
		1974年 昭和49年 5月25日	読売	「玉川上水」放流ストップ計画	節水か自然保護か 「緑に打撃」と住民反対	都「一日七千トン ムダ」。渇水によりわずかな水もムダにできない。この計画にカンカンなのは井の頭でホタルを放した玉川上水を守る会・・・。
		1974年 昭和49年 6月11日	読売	玉川上水放流止めを考え直せ		武蔵野市緑化市民委員会は美濃部都知事に計画の中止を訴える要望書を出す。

		1974年 昭和49年 6月27日	読売	玉川上水保存“延長戦”	都、必要量は流す 地元、恒久策働きかけ	「節水か自然保護か」でもめた玉川上水。地元には一切の相談なしに通水停止策が持ち上がり、地元住民は怒った「緑が失われ。ホテルの宿はどうなるか？、ゴミ捨て場になってしまう」など。ところでこれまでの経緯を振り返ると、地元にとって自然保護は買かれたが、現実には水量は減ることになる。国の史跡指定は無理だとしても、「自然保護と回復に関する条例」に基づいて「歴史環境保全地域」に指定せよと訴える。玉川上水保存の最終ラウンドで、自然保護に対する都の姿勢が問われている。
		1975年 昭和50年 1月15日	読売	井の頭公園で連絡橋が完成	西園への散歩道 グーンと便利に	都立井の頭公園に流れる玉川上水の上に、新しい橋「ほたる橋」が完成。御殿山から西園へ直接行かれるようになった。
		1975年 昭和50年 5月15日	朝日	水枯れ機会に大掃除	玉川上水クリーン作戦	水枯れから2週間。武蔵野市は住民の協力を求めて市ぐるみのクリーン作戦を展開
		1975年 昭和50年 5月3日	読売	玉川上水ナゾの蒸発 井の頭公園付近	放水千トン影なし 地層変化？ホテルSOS	5/2までに武蔵野市三鷹市杉並区の玉川上水が干上がる。水道局はいつも通り千トン/1日を放流していると説明。
		1975年 昭和50年 5月4日	読売	中央線工事で？	玉川上水の蒸発	玉川上水の自然を約8年に渡って撮り続け、「銀座ニコンサロン」で写真展「玉川上水---土に属するもの」を開く。
		1975年 昭和50年 6月25日	読売	玉川上水に“ホタルの舞”	水があまーくなったかな？	小平市を流れる玉川上水に、ヘイケボタルが自然発生した。六百匹。思わぬ“自然発生”に地元の人たちは大喜び。ホタルが発生しているのは「ひがしたかの橋」の下流一帯。市民からの知らせで、同市公園緑地課が確認したところ、500メートルの区域で群れ飛んでいた。
		1975年 昭和50年 7月13日	朝日	玉川上水で大掃除	2トン車に5台分のゴミ	武蔵野三鷹両市の市民団体と職員などあわせて250人が参加して実施。
		1976年 昭和51年 4月20日	読売	都がサクラいびり	幹にクギ打つ もう寿命と無関心	「桜を保護するどころか痛めつけている」守る会や地元の方が都を非難している。
		1976年 昭和51年 4月8日	毎日	玉川上水、国の史跡に	都と文化庁「武蔵野を保存」	上流部を国の文化財（史跡）に指定、岸辺の雑木林ともども永久保存することが決まり・・・最初は小平区間のみが第一候補。
		1977年 昭和52年 5月20日	読売	カンタン君 郊外へ転居	居場所へ相次ぐ開発	杉並区永福1丁目一帯はカンタンの生息地だったが、相次ぐ開発で、愛好家によって久我山の玉川上水べり、善福寺川べりに引っ越し。卵を傷つけないようハラハラしながらの引っ越しだった。
		1978年 昭和53年 1月9日	朝日	武蔵野 足で発見	玉川上水自然道を歩く会の一年	文化人、学者の参加も多く、途中で輪になって講義を聞く「井の頭公園と玉川上水の雑木林」（東大名誉教授 峯一三）「歩く効果」（学芸大助教授 丹羽昇）。
		1978年 昭和53年 3月21日	読売	ケヤキを守る会が都に署名簿		渋谷区初台の玉川上水沿いにあるケヤキの老木5本が撤去を余儀なくされている問題。ケヤキを守る会は「ケヤキは数少ない武蔵野の面影で、可能な限り現状のまま生かしてやって・・・」とうったえる。
		1978年 昭和53年 3月30日	読売	一本だけ移植	玉川上水のケヤキ	渋谷区初台の玉川上水沿いのケヤキについて、住民説明会が開かれ、住民30名と2時間にわたって協議が行われた。そのままの保存は不可能で、1本のみ代々木公園に移植されることになった。

		1978年 昭和53年 8月29日	読売	玉川上水やせるばかり	雨無し異変 貴重な千トン/1日放流ストップ寸前に	玉川上水の通水時に7千トン/1日だった水量が通水停止後も千トン/1日が流されていたが、節水で水が届かなくなり川底が乾いている。
		1978年 昭和53年 8月30日	毎日	干上がった玉川上水	放流をストップ 土手、側壁崩れる恐れ	水不足による。
		1979年 昭和54年 9月6日	毎日	玉川上水暗きょ化	都計道路の120M 自然残せ、住民反対	三鷹駅と境浄水場の間地点 武蔵野市が計画した道路。
		1979年 昭和54年 9月6日	朝日	また変わる、緑の玉川上水	道路が横断 景観を惜しむ声も	武蔵野市の道路計画。120M暗きょ化。クヌギ、ケヤキなど約100本が伐採される。
		1979年 昭和54年 9月21日	毎日	玉川上水 自然は残った	武蔵野市会委 暗渠化継続審議に「市民の声を大切に」	武蔵野市がすすめる道路計画。玉川上水の120メートル暗きょ化。委員会で与党である社会党2名だけ賛成、あとの議員は「慎重にやるべきだ」。
		1979年 昭和54年 9月28日	毎日	玉川上水ついに暗きょ化	武蔵野市”三転”近く着工	現地視察で自民2名、公明1名が説得され、可決する見通し。
		1979年 昭和54年 11月14日	毎日	三鷹住民決起 広がる反対の輪	態度変えぬ武蔵野市	「法的にはいつでも木を切れる状態」と武蔵野市。一方上連雀市民は「計画を知ったのが10月24日」「国民の財産である玉川上水を埋める権利は武蔵野市には無いはずだ」署名50世帯170筆。騒音の補償といった条件闘争から「道路建設の必要性は無く、上水の破壊は許されない」という絶対反対闘争に切り替え、武蔵野市に要望書を提出。回答を待っている。このような市民の動きに武蔵野市は今月初めに予定していた伐採を延期。
		1979年 昭和54年 12月4日	毎日	住民との対話は平行線	玉川上水暗きょ化工事	橋梁化への変更や、暗きょの場合でも規模縮小など計画変更を検討せよ、環境アセスメントせよ。
		1979年 昭和54年 12月12日	毎日	暗きょ化短縮 異例の設計変更	玉川上水問題で武蔵野市	武蔵野側8m、三鷹側22m暗きょを短縮、20本が伐採を免れるが、自然破壊はぬぐえぬ。
		1980年 昭和55年 2月8日	毎日	今度は三鷹市で	玉川上水の暗きょ化	三鷹橋下流104メートル暗きょ化し自転車置き場、三鷹市の計画。
		1980年 昭和55年 5月28日	読売	玉川上水さっぱり	三鷹職員 川ざらい	都民の歴史的遺産となっている玉川上水をきれいにしようと、27日三鷹市の環境、衛生両部の職員50名が空き缶など清掃車4台分のゴミを片づけた。同上水は現在空堀だが、両岸は雑木や草が清々と茂り、都民にとってその側道は緑の散歩道。管理者は水道局だが、予算不足で年に2回草刈りをするだけ、見かねた市が「このまま放っておけない」と職員を動員し川ざらいとなった。
		1980年 昭和55年 8月21日	読売	次々にフタ「もう許さん」	水に油、三鷹市の自転車置き場	三鷹駅の東側、玉川上水を104メートル埋め立てて自転車置き場を作る三鷹市の計画に、「時代に逆行する」「立体駐輪場など別の策を考えて欲しい」「都民の文化財をこれ以上壊さないで」など猛反対。
		1980年 昭和55年 12月12日	読売	市民団体がスクラム	文化財「玉川上水」守るぞ	「玉川上水の自然を守ろう」と三鷹、武蔵野、小平にまたがる上水沿いの5つの団体が大同団結。団結を呼びかけたのは三鷹市井の頭地域の「玉川上水沿線住民会議」。同会は玉川上水にかかる松影橋建設に反対して結成された「環境を守る会」（有賀喜見子代表）と活況アセスメントの情報公開請求運動を始めた市民グループが合流して結成。これに呼応したのが市内の「三鷹玉川上水を守る会」「玉川上水自然道を歩く会」「小平玉川上水を守る会」。ちかく現在休眠状態の武蔵野市の「武蔵野市玉川上水を守る会」も加わる予定。

		1980年 昭和55年 12月21日	朝日	運動推進に懇談会	玉川上水を守る三団体	「玉川上水を守る三鷹住民会議」「玉川上水自然道を歩く会」「三鷹玉川上水を守る会」一堂に会して今後の運動の協力を確認。
	玉川上水緑道	1981年 昭和56年 5月28日	読売	水辺の恩恵忘れまい	夫の助言で関心深め マイタウン東京に論文	渡部玲子さん、' (夫 渡辺一二さん) マイタウン東京構想に論文提出。分水網など歴史的価値や憩いの場。
		1982年 昭和57年 6月24日	毎日	玉川上水に清流復活 都が計画	水路敷はグリーンベルト	昭和59年からの清流復活を目指す
		1982年 昭和57年 6月24日	読売	玉川上水を史跡河川に	国指定受け、人口水流す	「玉川上水」について都は23日、国の史跡指定を受けて全面的な「よみがえり作戦」に乗り出す方針を固めた。都の今回の計画は、上水をよみがえらせて都民のオアシスにしようという狙い。これ以上の「開発」にストップをかけることが必要との判断。
		1984年 昭和59年 4月18日	毎日	清流復活おあずけ	61年目標流れる	処理水9万トン生産の予測が5万8千トン程度で水が足りない。
		1984年 昭和59年 9月5日	読売	武蔵野台地に清流復活	野火止用水が下種処理で	玉川上水は一日、20～30万トンの水量だったが現在は維持のための一日千トンのみ。都の計画は190億円をかけ野火止、玉川、千川に下水処理水を流し、さらに神田川、善福寺川といったドブ川化した河川にも量上水から流し込むもの。水路補修にもなるべく人工的な手は加えず、土と木と水のおいにする清流を復活したいという。忘れてならないのは、上水が常に、押し寄せる都市化の波にさらされてきていることだ。これまでも道路化、地下鉄化など幾度となく持ち上がり、その都度、強い反対運動が起きた。三鷹市も三鷹駅の自転車置き場の計画を最近になって断念した。武蔵野の土の香りをとどめるオアシスとして生まれ変わることができるかどうかは、都をはじめ、区市の今後のセンスと努力にかかっている。
		1984年 昭和59年 12月14日	朝日	玉川上水に清流再び	都が発表 22年ぶり62年度に通水	関係市と区に通水計画と護岸工事を説明。63年度から一日1万トンの水を流して国の史跡指定を受けて現状のままの姿で残すというもの。
		1984年 昭和59年 12月14日	読売	清流よみがえる玉川上水	22年ぶり62年度から	下水処理水4万5千トン/1日 支流含め延長63キロ。マイタウン東京構想の中で通水を検討していた都が玉川上水、千川上水に62年度から清流復活することを明かす。景観保全優先の観点から、新たに遊歩道や子供の水遊び場などが一切設置しない。
	清流復活	1986年 昭和61年 2月11日	朝日	“玉川下水”の心配も	多摩川の原水流せぬか	ただ同じ都庁の水専門家は「水不足は作られた話だ。天降り先を見ればわかるように、水道局とダム建設業者との間に“つながり”があり、ダムをさらに築くためにも水に余裕があるとは言えないのだ」

		1986年 昭和61年 4月27日	読売	川底の野草守れ	通水前に土手移植 枯れてた間、珍種の宝庫に	21年ぶりに清流がよみがえる玉川上水で、小金井市を中心とする愛好家のメンバーたちが川底の野草を土手に移植する作業に励んでいる。植え替え作業にあっているのは「多摩の野草」の会員たち。サイハイラン、キツリフネ、アオイスミレ、イチリンソウ、ニリンソウといった市街地ではめったに見られない野草が別天地のように咲き乱れる玉川上水。清流復活で川底に沈むことを知り、水道局の許可をとり、急いで野草を土手に植え替えることにした。植え替えは小金井市内の玉川上水（約3キロ）を中心に、6月まで続ける予定だ。
		1986年 昭和61年 4月2日	読売	枯れた玉川上水に魚	護岸工事の暗きよで発見	21年ぶりの清流復活のための護岸工事で、三鷹駅地下暗きよの水たまりでコイ、フナ、ウナギなどの魚が多数生息していることがわかった。暗きよに流れこむ雨水や湧水を「命の糧」にして長い間生き続けてきたもので「枯川なのにウナギまで住んでいるとは・・・」。工事関係者の手で捕獲された魚はヒゴイ1匹（体調40センチ）、ウナギ1匹（体調40センチ）、フナ4匹（体調10～20センチ）、ドジョウ、ザリガニなど。
		1986年 昭和61年 5月13日	読売	玉川上水の野草を守る 小西陽子さん		「復活は大歓迎、ただ、川底に生えている野草たちが、その時・・・」いてもたってもいられなくなって「多摩の野草」メンバーとスコップ片手に、落ち葉の深い川底へ。根を傷めないよう気を使いながら、野草たちを土手のほうへ移す。フデリンドウ、アオイスミレ、ツルカノコソウ・・・まだ緑の残る武蔵野でもなかなかお目にかかれない野草の宝庫である。「足を運ぶたびに新しい感動があります。川底のゴミの中に咲くサイハイランを見つけた時はドキドキしちゃって」小金井市公民館の講座がきっかけで、玉川上水とその分水を生かす会の世話人も引き受けた。
清流復活		1986年 昭和61年 7月11日	読売	玉川上水に清流戻る	21年ぶり、来月27日通水	清流を求める市民の運動が実って、21年ぶりにせせらぎの音がよみがえる運びとなった。玉川上水は単なる「水路」としてだけではなく、土手に生える豊富な木々が武蔵野の面影を残す“グリーンベルト”になっている貴重な存在。このため、枯川になってからも、水路を暗きよにしてその上を道路や自転車置き場にする計画が四十年代に持ち上がったときには、沿線住民が猛然と反対運動に立ち上がった。その「自然を守ろう」という住民の熱意がさらに「玉川上水復活運動」へと発展し、都を動かし、清流復活へとこぎつけることになる。都では59年度から総工費18億円をかけて水路土手の補修工事を行ってきたが、「かつての玉川上水そのままの復元」をめざしたため、工事にあたっては極力コンクリートの使用を控え、作業もほとんどが手作業だった。

		1986年 昭和61年 7月23日	読売	ピンチ 清流復活 玉川上水	流通成功わずか5キロ	来月27日に通水式を控えて、試験通水を行っているが、復活区間18キロのうち放水地点から5キロまでしか実現せず、小金井、武蔵野、三鷹各市では、以前と少しも変らぬ枯川のままだ。都は「21年間も白干し状態だったため、水が流れとして育つためには水が周辺に充分しみ込む必要がある。その乾き具合が予想を上回っていた」と話す。
		1986年 昭和61年 8月1日	読売	試験通水を再延長	玉川上水「復活」まだ半分以下	1週間の予定だった試験通水を7月いっぱいまで延長したが、流れはいまだ小金井市の貫井橋までしかとどかず、1万トンを1万5千トンに増やしている。関係者はハラハラしながら見守っている。
		1986年 昭和61年 8月20日	読売	玉川上水の清流 住民からクレーム	二次処理水が汚臭 頭痛や吐き気訴える人も	清流復活したが、グリーンベルトを流れる水は茶色に濁り、下水特有の汚臭がし、敏感な人は頭痛、吐き気、目がチカチカしたりを訴え、汚臭を避けてジョギングコースを変更する人も出てきたという。
		1986年 昭和61年 8月21日	毎日	清流復活にぬかり	「悪臭」に住民が署名運動	21年ぶりの清流復活を目指し試験通水しているが、悪臭がひどいと再考を求める署名が始まった。水は川底からの漏えいなどで井の頭の万助橋までしか到達していない。
		1986年 昭和61年 8月23日	読売	野鳥や野草も身近	せせらぎ求めてうれしい訪問者	小金井市桜町に住む永井孝子さん。雨戸をあけると水音が聞こえた。「清流が戻った！」と玉川上水に行くとき目の前のケヤキの木にサンショウクイがつかいでとまった。玉川上水には野鳥が多い、多摩の山すそから東へと延びる一条の緑の帯は鳥たちにとってかっこうの“遊飛道”らしい。約31キロの玉川上水にはクヌギ、コナラ、ケヤキ、クリ、アカマツ、エノキ、樹木は約2万本。これに野草を加えればゆうに300種を超える。手近な植物観察の散策路としても、これほどの魅力を備えたところは街中にも珍しい。
		1986年 昭和61年 8月23日	読売	祝賀行事も多彩に	植樹、コイ放流、ホタル講演会、コンサート	「水の流れに楽しいメロディーを乗せて、玉川上水の清流復活を祝おう」と三鷹武蔵野両市の自然保護団体がコンサートを開く。演奏するのはいずれも玉川上水に住む音楽家たちで、水にちなんだ曲を15曲披露する。コンサートを機に「玉川上水緑の基金」を創設し、コンサートの収益金を積み立てるほか、広く寄付を募って市民の立場から玉川上水の自然を守る運動を展開することになっている。
		1986年 昭和61年 8月25日	朝日	戻ってきた「玉川下水」	21年ぶりに通水 18キロ下水処理水を利用	試験通水《杉並まで1か月以上かかった》《約2万匹のコイ、フナ放流を予定》《悪臭など苦情も》
		1986年 昭和61年 9月4日	朝日	玉川下水緑の基金創設へコンサート	武蔵野市・三鷹市の四市民団体	「水と自然」をテーマに15曲を披露。コンサートの収益金を同基金に積み立てるほか、広く寄付も募り「清流復活」から「自然保護」へ運動の転換をはかる。森林文化協会の会員でもある有賀喜見子夫人は「長い間の運動が実って上水に水がよみがえった。これから大事なのは自然を守ること。何かコトが起きてからでは遅い」と基金創設とコンサートを結び付けたという。

		1986年 昭和61年 9月20日	朝日	清流復活に河川水	都議会で知事、検討を表明	都の都市計画局、環境保全局、建設局、建設省関東地方建設局との間で覚書があることが表面化。多摩川本体が先細りしないよう、処理水が5万トン/1日を超えた場合のみ上水に供給
		1986年 昭和61年 9月26日	読売	せせらぎ順調復活	「歩く会」147人も参加	清流が戻って明日で1か月。「歩く楽しみが増えた」と「歩く会」の参加者は発足から十年で最多の147人にも達した。2年後には千川上水の復活もひかえている。
		1986年 昭和61年 12月14日	毎日	玉川 浄水 となりますか	活性炭、脱臭剤で大作戦	2000万円の施設建設。
		1987年 昭和62年 1月11日	読売	「千川上水」にも清流戻るぞ	復活の通水工事急ピッチ	千川上水は玉川上水に比べて浅く、土手もなめらかなので、市民が水辺まで下りていくことができる。流れで子供たちが遊べるよう、工夫を凝らして水路の補修工事にあたっている。
		1988年 昭和63年 4月17日	読売	土と水と緑の大切さ知って！	玉川上水流域25キロ歩いて撮影8年間	女性会社員が銀座で写真展。小金井市前原町に住む渡辺幸子さんが、趣味のカメラで自宅近くを流れる玉川上水を
		1989年 平成1年 2月10日	読売	玉川上水に流れ取り戻そう	新宿で住民が5000人署名運動	新宿区四谷大木戸の跡地に散策道整備があり、それに伴い住民は玉川上水の復活を働きかけている。
		1989年 平成1年 4月1日	朝日	新宿区議会が復活陳情採択	廃路の一部利用 清流取り入れる	「四谷大木戸に玉川下水を復活させる会」8500筆の署名。現在暗きよの四谷大木戸から上流1キロ区間を地上に出し、清流復活させるもの。
		1989年 平成1年 7月30日	読売	ホタル5000匹放す	笹塚中の「ホタルの会」	笹塚中学校では宮城県からゲンジボタル5000匹を取り寄せ、玉川上水に放した。「将来は笹塚でホタルが自然発生するようにしたい」
		1989年 平成1年 9月7日	読売	山本敏雄（虎三）氏死去	玉川上水自然道を歩く会会長	85才
バブル崩壊		1991年 平成3年 3月1日	読売	東京・杉並区の玉川上水につくし		杉並区久我山の玉川上水の土手に、早くもツクシが芽を出した。同区広報課によると毎年この季節に付近でツクシ探しをするが「今年は例年より1か月ばかり早い」
		1993年 平成5年 7月3日	読売	「緑と水の回遊路」整備へ	玉川上水など拠点に 三鷹市	三鷹市は景観に配慮した心地よい街を作ろうと、玉川上水など市内の3つの川と豊かな緑を生かした「緑と水の回遊ルート」の整備計画を進めている。この計画は、市のイメージを「緑と水の公園都市」と位置づけ、そこに暮らす市民や訪れる人が歩いて楽しく、見た目も美しい街にするのが狙い。玉川上水に牟礼の里、仙川に「丸池の里」、野川に「大沢の里」の3拠点を設定
		1996年 平成8年 6月20日	朝日	玉川下水は未登記だった	都「ずっと管理・使用」国「民法ではわが財産」	19日の都議会で青島都知事は「都民にとってかけがえのない貴重な財産。全域を適切に保全できるように努力したい」と答弁。都は「都の財産」として史跡指定を受けたいとしている。
		1996年 平成8年 7月17日	読売	「幻」の玉川上水、府中市で発見	完成作の前身、工事中に断念	府中市清水が丘、東京競馬場単身者用住宅の建設予定地。工事を始めたものの水が地中にしみ込んでしまい途中で工事を断念したという。
	玉川上水景観基本軸 指定	1997年 平成9年	読売			

	玉川上水景観基本軸 指定	1997年 平成9年 3月6日	朝日	玉川下水「歴史環境保全地域」に	都議会で指定方針	未登記の問題で史跡指定が難航。都は独自に「歴史環境保全地域」の指定に踏み切った。建物の新築や水路変更が難しくなるほか、横断する道路を作る場合も都との協議が必要になる。
	玉川上水景観基本軸 指定	1997年 平成9年 4月25日	毎日	歴史環境保全地域に「玉川上水」	指定へ青島都知事が諮問	自然環境保全審議会に諮問。通水停止により法面崩落が進んだ箇所もあり、指定されれば初めて保全計画が策定される
	歴史環境保全地域 指定	1999年 平成11年 1月20日	毎日	「玉川上水」現況保存へ	都自然環境保全審、地域指定を答申	「桜タイプ」「雑木林タイプ」「草地・低木タイプ」など10パターンに分け管理。法面崩壊は調査し、なるべく現況を維持しつつ、必要ならば補強も行う。
	歴史環境保全地域 指定	1999年 平成11年 1月20日	読売	歴史環境保全地域指定へ	都審議会が答申	都自然環境保護審議会は玉川上水43キロのうち、福生、新宿区間の約28キロについて歴史環境保全地域に指定するよう答申した。都は今年3月をめどに指定したい考え。指定後には土地の形などの変更規制がかかり、武蔵野の面影を残す雑木林や名勝小金井桜、素掘りでの歴史的な価値を持つ上水路が保全される。
		2001年 平成13年 5月14日	読売	玉川上水の地権争い やぶの中	国と都40年以上綱引き	1960年に会計検査院が「国有財産台帳」に記載されているのに適切な管理がなされていない」と指摘し国と都が協議したが結論が出ないまま棚上げされていた。82年、都が史跡指定を国に申請し、所有権問題がふたたび表面化。市民団体「小平玉川上水を守る会」の世話人、庄司徳治さんは「国、都、どちらの所有でも構わない。より厳格に開発規制をするためにはやく国史跡に指定して欲しい」と話している。
		2001年 平成13年 12月12日	読売	玉川上水 大量落ち葉に住民悲鳴	高い位置の枝打ち申し入れ 都は難色	「木を守る」ことを優先する都と「生活する人のことも考えて」という市民の溝は埋まらない。「自宅の雨どいを詰まらせる落ち葉を減らすため、高い位置の枝打ちをして欲しい」と昭島市の住民。玉川上水は歴史環境保全地域に指定されているため、都環境保全局は、雑木林の状態を維持する保全計画書に基づいて木々の管理をしており、伐採などは景観や林の構成を保つ範囲でしかできないという。苦情を受けた場合「個別の状態を見て検討するが、社会通念上の限度を越えていなければ、環境保全のために周辺住民の協力をお願いするしかない」と同局。昭島市も「連絡を受けて職員が掃除に出向いたり、都にせん定をお願いすることもあるが、上水は市にとっても貴重な自然。近隣住民には迷惑とは思いますが、ご協力願いたい」
		2002年 平成14年 2月22日	読売	玉川上水でクリーン大作戦	三鷹、武蔵野両市民が参加	玉川上水の景観をよみがえらせようと三鷹、武蔵野両市の職員や市民ら150人が参加して21日、大クリーン作戦が展開された。三鷹駅近くから吉祥寺通の万助橋付近まで約800メートルで実施。上水の堤に生えた下草を取ったり、本来の植生ではないシュロや竹の伐採なども行った。ゴミは220キロ、伐採で出た枝葉は約2.3トン。三鷹市都市整備部の田口技監は「予想以上に多くの人に参加し、市民の玉川上水への思い入れの強さを実感した」と話していた。

		2002年 平成14年 2月8日	読売	玉川上水 最上流を保全地域追加へ	都自然環境保全審	羽村取水堰から宮本橋までの2キロを追加することを決め知事に答申した。これまで自然公園の一部であったため、重複措置となる保全地域してはできなかったが、自然保護条例の改正で指定可能になった。
史跡・玉川上水 指定		2003年 平成15年 1月21日	毎日	「玉川上水を国史跡に」	維持管理強化へ申請 都水道局	都水道局は玉川上水を国の史跡に指定するよう文部科学省に申請することを決定。指定された場合文化財保護法の適用を受け、保存体制の強化が図られる。同局によると、老朽化が進んで壁の崩落などもあり、維持管理に毎年数千万円を要するという。
		2003年 平成15年 4月6日	読売	玉川上水 保全へ広域連携	市民団体がネット結成。	玉川上水の保全活動などに携わる市民団体などがネットワーク組織「玉川上水ネット」を結成した。
		2003年 平成15年 5月17日	読売	玉川上水が国史跡へ	文化審答申、流域連絡会結成も	史跡に指定されると、保存、保護が管理団体（都水道局）に義務付けられ、現状変更する場合は文化庁の許可が必要となる。管理や修理の一部が国から助成される。
		2003年 平成15年 5月7日	読売	玉川上水の40年論争、決着	都に所有権で調停成立 国も合意	地裁は都の所有権を認める調停案を提示、国も合意して12月19日に決着した。史跡に指定されると補修や整備に国の補助金が得られる。
		2005年 平成17年 5月27日	毎日	野火止用水 設備負担金を新座市支払い拒否		
		2005年 平成17年 9月14日	読売	国史跡の玉川上水 手続き複雑で補修進まず	東京都、基準策定へ検討委発足	史跡指定後、都水道局は工事などの際、文化庁の許可を得ることが義務付けられ、同庁の文化財保護審議会に対し「改変」ではなく「現状回復」であることを証明しなければならず、書類づくりや手続きに時間を要するようになったという。水路の一部で法面の損壊など補修工事が滞るなどの問題が出てきた。
		2006年 平成18年 1月14日	読売	緑のネットワーク確認	立川市など9市、広域連携サミット	立川市とその近隣の計9市の市長が枠組みを超えて共通の行政課題を話し合う。小平市の小林市長は「多摩川や玉川上水をテーマにしたイベントができないか」と提案した。
		2006年 平成18年 3月3日	読売	「小金井桜」復活へ本腰	都、玉川上水と一体で保存計画	1924年に名勝に指定されたが、並木のケヤキなどで陽当たりが悪化、並行している五日市街道を走る車の排ガスによる影響もあって枯れる木が増えた。都では2003年に玉川上水が史跡に指定されたことを受け、玉川上水の保存管理計画を策定中。小金井桜もこの計画に盛り込み、一体的な保護策を打ち出すが、一部区間でケヤキなどをすべて伐採し、往時の景観を取り戻す案などが上がっているという。
		2006年 平成18年 6月24日	読売	KHV感染コイ 玉川上水で確認		都によると、玉川上水でコイヘルペスウィルスに感染しているコイが確認された。同上水では初めて。立川市-杉並区間で232匹が発見されたという。

		2006年 平成18年 12月2日	読売	玉川上水景観保護 都と立川市連携を	住民団体が請願	同市柏町の上水近くに西武鉄道マンション（10階建て）県s熱が予定され、同上水に沿って高さ30メートル、横幅210メートルになるという。景観への配慮が無く、周辺住民の行こうも反映していないとして、計画の見直しを求めている。
	保存管理計画策定	2007年 平成19年 4月18日	読売	玉川上水 都が保全策	「小金井桜」景観守れ	都水道局は国の史跡玉川上水の保存管理計画を策定した。都が管理計画を策定したことを説明する記事なのに「小金井桜 景観を守れ」と市民の声のように書いている。
		2007年 平成19年 4月26日	読売	北上の桜「本家」救う日	東京小金井堤へ 86年ぶりUターン	1921年に小金井から小金井桜が送られた北上市から、苗木11本、小金井市に返還される。
リーマンショック		2008年 平成20年	読売			
		2009年 平成21年 12月23日	読売	玉川上水の風景 映画に	変わりゆく街 歩いて語る	放射五号建設で失われようとしている久我山から井の頭間の玉川上水を歩いて、様々に語る。「月や花を愛した歌人からすれば、怒りを覚えるのでは」と『怒る西行』というタイトル。
		2009年 平成21年 3月23日	毎日	玉川上水「放射5号」延伸計画	地元で根強い反対も	放射五号の計画に、住民の一部から根強い反対の声が上がっている。都は「必要な道路なので環境に配慮して2013年3月までの完成を目指す」住民側は「貴重な自然が壊される」などと反発。議論は平行線をたどっている。
		2009年 平成21年 8月15日	読売	玉川上水整備へ10年計画	都 歩道整え散策しやすく	東京都水道局は区の史跡になっている玉川上水の整備活用計画をまとめた。現状は法面が崩落して巨木が倒れる危険性がある場所がいくつもある。また草木は水路を覆い隠すほど伸び放題で、水路沿いの歩道は途切れたり狭かったりと、景観が悪く散策に不向きな場所も少なくない。立川から杉並までの18キロを今回の対象区とした。計画では法面の補修と草木の伐採を並行して行っていく。
	小金井モデル地区640m皆伐	2010年 平成22年 7月12日	読売	「小金井」の桜 復活計画	北上児童ら50人 種子拾い	児童が拾った種子1000粒が「名勝・小金井桜の会」に手渡された。小金井桜の会の石田会長は「ケヤキを伐採して、空いた場所に桜1000本を植える計画。種子は蒔いて約3年で苗木にできる。立派に育てるので10年後には桜の花を見に来て欲しい」と話していた。
	小金井モデル地区640m皆伐	2010年 平成22年 9月25日	毎日	小金井桜：復活に協力を	市が来月3日に説明会	名勝・小金井桜の再生、復活に取り組む小金井市は10月3日、市立公民館分館で説明会を開いて市民の理解と協力を求める。
東日本大震災		2011年 平成23年	読売			
東日本大震災		2011年 平成23年 9月25日	毎日	ヤマザクラ天敵初確認	病原性キノコ 桜の会が駆除依頼	名勝小金井桜の会が8月に実施した樹勢調査で病原性が高く「桜の天敵」ともされるキノコ「ナラタケモドキ」の発生を初確認した。
		2012年 平成24年 2月18日	毎日	名勝小金井桜をテーマに	来月から5回	玉川上水沿いのヤマザクラ復活を目指す「名勝小金井桜の会」がNPOに認証されたのを記念し5回の連続講演が「開かれる。参加費3000円、定員40人
		2012年 平成24年 4月14日	読売	玉川上水をネット来月19日に総会		玉川上水流域の環境保全を考える「玉川上水ネット」は5月19日に国分寺労政会館で一般参加も可能な総会を開く。同ネットは11団体と市民が昨年7月に発足させた。

		2012年 平成24年 9月25日	毎日	玉川上水サミット	中流域市区長招き--津田塾大で29日	サミットは小平市が市政施行50周年に合わせて企画。7市区長が参加し「自治体と玉川上水の関わり」「将来への夢」などについて意見交換する。
		2012年 平成24年 9月30日	読売	玉川上水を交流の場へ	小平で7区市町が宣言	小平市の小林市長の呼びかけで今回初めて実現した。「玉川上水は複数の自治体にまたがる水路。将来に向けて自治体の連携した取り組みが必要だ」と小林市長。「自治体が連携して玉川上水の清流を復活させ、ホテルが集まるようにしたい」と小金井市稲葉市長など意見が出された。
		2013年 平成25年 5月25日	読売	東京小平住民投票50%に注目	あす実施開票条件に投票率	3・2・8号線建設の是非を問う住民投票。投票率が50%に満たない場合は開票しないという案で議会を可決。
		2013年 平成25年 5月27日	毎日	都道路計画：見直し35.17%	小平住民投票不成立	小平市部の玉川上水を横切り、雑木約500本を伐採する道路計画（3・2・8号線）の見直しを問う住民投票は投票率50%を越えず不成立になった。
	関野橋～梶野橋400m皆伐	2014年 平成26年 8月30日	読売	玉川上水の自然 あす小平でシンポ		玉川上水のラムサール条約登録を目指すシンポジウム「玉川上水いきものたちの通り道」が小平市中央公民館で開かれる。地元の市民グループ「ちいさな虫や草やいきものたちを支える会」主催。
		2015年 平成27年 4月16日	読売	玉川上水景観維持へ署名	小平の市民団体 国に提出	小平市で計画されている都道建設を巡り、同市の市民団体などでつくる「みどりのつながり市民会議」は文化庁に対し計画に伴う現状変更を認めないことを求める署名を提出した。
		2016年 平成28年 8月21日	毎日	玉川上水「世界遺産に」	多摩美大 渡辺名誉教授、歴史的価値を強調	立川市内で「玉川上水と多摩の水文化」と題して講演を行った。
		2016年 平成28年 8月29日	毎日	講演会「玉川上水を守る」	武蔵境で来月19日	主催は住民団体「玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会」。中央大学の鷲谷いずみ教授（生態学）が「さとやまと水辺の生物多様性の保全と市民の参加」と題して講演する。
	小金井橋～新小金井橋600m皆伐	2017年 平成29年	★			
		2018年 平成30年 2月3日	毎日	文学施設建設見直し	「太宰」「吉村」井の頭公園内断念	2019年にオープンする予定だった「太宰治記念文学館」「吉村昭書斎」の建設を延期し、建設場所を再検討すると三鷹市清原市長は「市民の意見を聞くと、生態系の保全等の観点から、別の場所を検討すべきだとの意見が多く寄せられた」とコメントを出した。市が市民から意見を募ったところ集まった302件のうち、建設場所の見直しを求める意見が69件と約2割を占め「玉川上水に面し、野鳥が異動して滞留する場所、野鳥のすみかを奪わないで」「貴重な都市の自然を失いたくない」などが挙がったという。
		2018年 平成30年 2月6日	毎日	小金井桜：復活を目指す	花見の名所築いた平右衛門しのび	平右衛門の出身地府中で植樹式。ゆかりの小金井桜5本を府中市郷土の森博物館に植えた。
		2018年 平成30年 4月19日	朝日	玉川上水を次代へ 自然・生物シンポ	22日小金井で	玉川上水の自然や生物多様性を守る活動に取り組む近隣住民らの「小金井玉川上水を守る会」が22日シンポジウム「玉川上水の貴重な自然を次世代に残したい」と参加を呼びかけている。シンポには小泉武栄・東京学芸大名誉教授ら専門家3名を招き、玉川上水の生物多様性などについて話してもらう。資料代300円

		2019年 令和1年 6月7日	毎日	放射5号線、あす開通	計画から73年 緑地帯増やし、全線で	1946年に計画決定した道路。玉川上水の環境破壊を危惧した住民が72年に反対運動を始め、計画がいったん止まった。緑地帯を増やすなどして全線開通にこぎつける。
コロナ渦	小平市喜平～茜屋橋を皆伐しようとする	2020年 令和2年	★			
東京オリンピック	小金井地区の中低木伐採	2021年 令和3年	★			